

評価者のコメント

事業名：新事業の創出(クール・ジャパン)

・クール・ジャパン戦略推進事業

評価者のコメント

- 国が支援する必要性を明確化すべき。
- 国は、政府間交渉(知的財産関連等)のような分野に重点をおくべき。
- 他省庁・他機関(JETRO等)との役割分担を明確化すべき。
- 日本のライフスタイルのアウトリーチなのか、中小企業支援なのか、目的を明確にすべき。
- 事業の見通しを具体的に示し、的確な進捗管理をすべき。
- 日本のイメージを高めるためなら、官公庁のビジットジャパン事業との統合を検討すべき。
- 時間軸、具体的政策目標、実績評価のプロセスが不明確。
- 事業採択のあり方を見直すべき。
- 産業全体で受益できる「システム」を作るための政策であればよい。
- 国がやる意義が明確になるまで中止すべき。

評価結果

抜本的改善

(最終的な目標である8~11兆円の世界市場獲得に向けた具体的な道筋を示すこと。また、その進捗を的確に把握できる成果指標を設定すること。また、事業の採択にあたっては、産業全体で裨益する事業であって、政府の事業として実施すべきものに限定すること。)

(廃止3名／抜本的改善3名／一部改善0名／現状維持0名)

とりまとめコメント (要旨)

「廃止」と「抜本的改善」が3対3の同数であったが、廃止という意見の中でクール・ジャパン政策の必要性というものを認めていただいている方もいらっしゃったと判断できるため、本事業は「抜本的改善」として進めさせていただく。
議論の中では、最終的な目標である8~11兆円の世界市場獲得に向けた具体的な道筋を示すこと、また、その進捗を的確に把握できる成果指標を設定すること、事業の採択にあたっては産業全体で裨益する事業であって、政府の事業として実施すべきものに限定すること、という意見があったが、これらのご指摘はまさに的を得たもの。
国として貿易立国である我が国をどう支えていくかを考えていくときに、日本が持っているいいものを少しでも後押しできるなら何かやるべきだとの視点に立ち、クール・ジャパン政策を考えてきた。この裏にはジャパンルネッサンスというものがある、意欲はあるけどノウハウがない」という方や、「努力はしたが資金的に厳しい」という方が大勢いらっしゃることを受け、政府が音頭をとってやってみるという機会を多く提供しようという考え方でクールジャパン政策を進めてきた。まだ1年目ということもあり、うまく成果等を説明できていない点もあるが、クールジャパンに対抗した海外の動きもある、ということをご理解いただきたいところ。政府としては「廃止」という厳しい意見もある中で、「抜本的改善」と決めさせていただいたので、責任を持って進めさせていただきたい。